

## 同志会大阪支部 50 年のあゆみ

黒井 信隆

### 1. はじめに

2021 年 6 月をもって大阪支部は 50 周年を迎える。なぜ半世紀も支部活動を続けてこられたのか。三局体制（研究・編集・事務局）、プロジェクト、支部・ブロック研究など所属担当者から解明してもらえればと思っている。第一回、第二回は、私のほうから総括的に述べていきたいと思っている。その後、いろんな方々から述べていただければと考えている。最低一年は企画を考えているので、会員のご協力をお願いしたい。

### 2. 学校体育研究同志会「私たちの誓い」（68 年制定）が原点

学校体育研究同志会は、1955 年 1 月、丹下保夫さんら戦後の民主体育に情熱を注ぎこんだ教師たちによって創立された。そして 68 年に「学校体育研究同志会会則」「私たちの誓い」を制定し「個人加入による全国組織」を結成した。

私たちは、民主教育、とりわけ運動文化を核とする研究・運動の普及、拡大と学校体育・国民スポーツなどの充実と発展の活動を推し進めることを目指してきた。その中で、研究活動の原点は「私たちの誓い」の三つである。

- ①私たちは、憲法と教育基本法を、平和、独立、民主主義の社会建設を目指す国民教育の基軸とし、科学的かつ創造的な実践と研究を行い、日本の子どもたちの明るい未来を築き上げていくことを誓う。
- ②私たちは、国の内外を問わず、民主的な教育の創造をめざす教師、研究者たちと多面的に交わり、教育を抑圧するどんな力にも屈することなく、真に国民大衆の願いに答えていく体育・健康教育の創造を誓う。
- ③体育・健康教育の課題は、真実の文化創造から疎外され連帯感の喪失を促進、強化されている日本の子どもたちに、科学的な体系と人間的な基調とする真に国民教育の名に値する目標、内容、方法の統一的理解を明らかにすることである。以上。

この誓いが、私たちの研究の羅針盤となり発展し続けてこられたことを忘れてはならないと考える。

### 3. 先輩会員たちから学んで大阪支部は発展してきた

私たち大阪支部は、71 年 6 月 26 日、草加、村田、出原氏らを中心に、第 3 回同志会大阪集会を、なにわ会館（現在はアウイーナ大阪）にて開催し、10 数名の参加で結成された。

とりわけ当時、全国常任委員長だった中村敏雄さんは、大阪に何度か足を運んで支部結成に努力されてきた。特に中村敏雄さんから学んだことは、以前にも述べてきたことでもある。

研究活動を続けていくためには、「ヒマ（自分の時間）」「エネルギー」「金」が必要で、特に「ヒマ（自分の時間）」を生み出すには、①事務処理能力を高める。②計画的な日常生活を送る。③いつも研究課題を鮮明に意識していることが必要である、と言われた。

自由な時間があってこそ人間は発達するわけで、そのためには職場に自分を合わせるのではなく、自分に職場を合わせるような「自由な時間」を確保していかなければならない。また、事務処理能力を高めることによって、自由な時間が生み出される。

もう一人は出原さんである。大阪支部 15 年史の「あいさつ」で、次のように述べている。「自前の思想」は、自立の思想である。ヒモ付きではなく、身ゼニを切って勉強すること、これは民間教育団体で生きる自分自身の証明であった。誰のためでもない。自分の金で自分のために勉強するからこそ、身ゼニを切ることで自己変革が生まれる。要は、身ゼミを切ることでより自分自身を成長させてくれることができるということである。今でも、この言葉は、私の「座右の銘」にしている。

私は、大阪支部 15 年史の「あいさつ」で「大阪支部がこれまで発展してきた背景には、先輩会員をはじめとする全会員の英知の総結集による、たゆまない実践的研究の成果であることは言うまでもないが、やはり体育同志会が日本の体育・スポーツの民主的・科学的発展をめざす、未来を展望する科学的な世界観を持っていたからであると確信している。」と述べた。

(1986 年 6 月 26 日)

#### 4. 三局、7 ブロック体制の確立（変革期）

大阪支部活動のあゆみによると、①71～73 年を支部創成期、②74～78 年を組織体制整備期、③79～81 年を支部発展期、④82 年から支部変革期、とりわけ 1985 年大阪大会後に三局、7 ブロック体制が確立した。会員数は、71 年は 10 数名、76 年は 67 名、78 年は 80 名、81 年は 130 名、82 年は 136 名、86 年は 167 名へと増やしてきた。現在は、支部会員は 120 名前後と OSBG' Z 会員は 36 名になっている。（\*現在、三島ブロックがなくなり、奈良ブロックになっている。）

2018 年度の支部活動は、支部研究 9 回、ブロック研究 22 回、民舞教室 9 回、支部大会、一年間 40 回ほど研究活動を大阪府下で行っている。また他に、プロジェクト研究もやっている。障害児体育、幼年体育、球技、健康教育、グループ学習プロジェクトや中村敏雄学習会も毎月実施している。これほどやっている支部はないと自負している。年間パンフも B 4 で表裏びっしり企画している。大阪支部は大阪府下（奈良も含めて）7 つのブロック体制になり、大阪サ連協の中でも大きな位置を占める民主的教育研究団体の一つとして成長してきている。

## 5. 全国をリードする支部研究活動

これまで大阪支部は、全国大会、支部大会、ブロック研究など多くの実践研究に取り組んできた。79年主体者としての「学力のつく授業」を追求してきた「ポドテキスト」研究、陸上の「田植え走」（出原実践）、「石谷ハードル実践」、「オニごっこ（Gマーク）」、「リレー実践」、「サッカー（じゃまじゃまサッカー）」、水泳プロの実践研究、「幼児体育」、「障害児体育」、「健康教育」実践など、実践研究の成果を全国に問うことをしてきた。

71年から86年までの支部先行研究文献によると、これまで陸上では、112本、器械では92本、水泳54本、球技総論9本、バスケットボール34本、サッカー31本、バレーボール17本、その他の球技7本、障害児体育66本、小学校低学年・幼年50本、民舞61本、体育行事28本、健康教育12本などがあげられる。これらは支部15年間だけの数であるから、今日までの数はわからないが、この数倍があると思われる。

## 6. 研究活動と組織活動の統一

体育同志会の研究運動の基本は、次の三つである。①研究例会を持つ。②例会の内容をニュースにする。③会費を納める。この三つの活動をするために、研究局、編集局、事務局（組織）が置かれる。この三つの局が機能してこそ、うまくいくものである。

先ほど研究活動について述べたが、それを支える組織活動が大変重要になってくる。私は、E G Gニュースでも、組織問題について書いたことがある。繰り返しになるが、もう一度触れておくことにする。

学校体育研究同志会2017年全国総会の資料によると、現在会員数は702名、たのスポ読者732部（季刊号）、私たちが常任の頃より、会員数が半減している。今、100名以上の支部は、東京と大阪だけである。一桁台の支部は、半数近くになっている。今、40歳代までの会員数は、331名である。10年後には、同志会員は拡大しなければ半分以下になる。東京では30名、埼玉8名、京都17名、大阪74名で、会員0になる支部は5つになる。量的拡大が質への発展につながる。（またその逆もあるが・・・）

今こそ、組織建設に取り組む必要があると述べたことがある。今後、原点に戻り、研究と組織の両面を考えた支部活動が求められると思う。

## 7. 機関紙「kick off」、支部大会提案集、支部ニュース（冊子）の継続を！！

皆さん、大阪支部ニュースは、たぶん来年1月号で、500号になると思う。500号を達成した支部は、数支部しかないと思う。私の手元には7冊分の分厚い冊子が家になる。50号を合わせて一冊にしている。支部ニュース500号、本当におめでとう！支部会員の英知の結果である。また、機関紙「kick off」も大阪支部独自に企画・作成してきた。50周年にはたぶん50号になるのではと思っている。これも快挙である。（自己満足していると言われそうである。）

さらに、支部大会の提案集も 2021 年度には 36 冊になる予定である。これも、どこの支部もできなかったと思われる。

このように大阪支部は「継続は力なり」と言われるように、小さいとき（71 年支部結成）からコツコツとしてきたから達成できたのである。もう一度、皆さんと喜び合いたいと思う。

## 8. 全国大会 3 回、記念集会 5 回行う

支部結成から大阪で全校大会を 3 回行った。30 周年、50 周年、60 周年である。支部内の目標では、30 周年の後、事務所を設立する予定であったが、大会の収益が少なくやりきることができなかった。その代わりに機関紙「kick off」の創刊、支部大会のブロック持ち回り制を確立し、3 局ブロックの活動を強固なものにしていった。50 周年の奈良大会の位置づけは、奈良支部を結成することであった。支部は結成されなかったが、奈良ブロックを新たにつくることができた。60 周年の箕面大会は、世代交代がうまくできたように思う。その後、退職者を中心として、OSBG'Z が発足して、新旧が新しい活動に踏み出したと思う。

大阪支部は支部の節目の時に記念集会を開いてきた。それは支部の総括を 5 年、10 年単位で、研究・編集・事務局の各部局で行ってきた。

- ・ 15 周年記念集会 1986 年 6 月 22 日 なにわ会館 レセプション会場 百楽  
「21 世紀の支部を語る」パネラー 中村・出原・榊原 司会 黒井
- ・ 20 周年記念集会 1991 年 6 月 26 日
  - ①「たのしい体育シリーズ 3 冊（「幼児の運動文化論」「たのしい体育の実践」「運動会ハンドブック」）の発行
  - ②機関紙「kick off」20 周年記念号の発行
  - ③20 周年記念レセプション
- ・ 25 周年記念集会 「今日の体育授業実践の動向と学習指導要領改訂の動き」（久保健氏）
- ・ 30 周年記念集会 文化の祭典とレセプション 30 周年を振り返るスライド上映
- ・ 40 周年記念集会 2011 年 7 月 2 日 ミニ講演とレセプション

支部 40 周年を節目に、研究活動を展望し強大な支部を建設する。50 周年に向けての提言は、「kick off」39 号を参照してほしい。

会員の英知を結集して、2021 年の 7 月、50 周年同志会記念集会を成功させよう！